久留米市文化財調査報告書　第352集

二本木遺跡

―第31次調査―

平成27（2015）年３月

久留米市教育委員会

序

九州第一の河川である筑後川の中流域左岸に位置する久留米市は、古代から文化・交通の要衝地として発展を続けてきました。

本書で報告する二本木遺跡は、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が数多く発見されています。今回の調査においても、弥生時代の溝や古代から中世にかけての遺構が発見されるなど貴重な成果が得られました。

本書が、文化財保護の理解と普及に、学校教育や生涯学習の教材として、また、学術研究の一資料として活用いただければ幸いに存じます。

発掘調査に際しまして、多大な理解のもとにご協力頂きました株式会社川﨑ハウジング代表取締役若林和彦様をはじめ、関係各位に対し心より厚くお礼申し上げます。

平成27年３月31日

久留米市教育委員会
教育長　堤　正 則

例　言

１．本書は、宅地造成に先立ち、株式会社川﨑ハウジングの委託を受けて実施した、久留米市御井町所在の二本木遺跡第31次調査の報告書である。
２．調査は、久留米市教育委員会が主体となり、市民文化部文化財保護課の熊代昌之が担当した。
３．現地調査は平成26年４月10日から平成26年５月９日まで、整理作業と報告書作成は平成26年10月１日から平成27年３月31日まで実施した。
４．本書に使用した遺構図は主にトータルステーションを用いて作成し、調査員の他、大淵文子・田中とし子が作業にあたった。また、遺物の実測及び浄書は非常勤職員の古賀和子・丸山裕見子が行った。
５．遺構・遺物の写真は、熊代が撮影した。なお本文中の遺物番号と写真図版番号は同一である。
６．本書の遺構実測図に示した方位は、国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基に作成し、座標北を示す。
７．遺構略記号は、ＳＤ…溝、ＳＩ…竪穴建物、ＳＫ…土坑を指す。
８．本調査の略記号は、ＮＨＧ－031、調査番号は201401である。
９．本書に関する諸資料は、全て久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管されている。
10．本書の執筆・編集は、遺物観察表を古賀和子が、その他を熊代が担当した。

本 文 目 次

Ⅰ．はじめに …… 1
Ⅱ．位置と環境 …… 2
Ⅲ．調査の記録 …… 3
Ⅳ．総括 …… 12

Ⅰ．はじめに

１．調査に至る経過

本調査は、宅地造成に伴う事前の発掘調査である。平成25年10月16日、株式会社川﨑ハウジングより久留米市御井町1591-1、1591-2における埋蔵文化財包蔵の有無の照会がなされたことに因る。対象地は、二本木遺跡の一角にあたることから、平成25年10月30日、試掘確認調査を実施した。調査の結果、遺構の存在が認められ、発掘調査を行うこと、調査費用を原因者が負担することで合意した。平成26年４月１日、株式会社川﨑ハウジング代表取締役若林和彦氏と久留米市長楢原利則は、二本木遺跡第31次調査の発掘調査委託契約書を取り交わし、発掘調査を同年４月10日より行うこととした。

２．調査の体制

調査委託者　株式会社川﨑ハウジング　代表取締役　若林　和彦
調査主体　久留米市教育委員会　教育長　堤　正則
調査総括　久留米市市民文化部　部長　野田　秀樹
次長　竹村　政高
文化財保護課　課長　園井　正隆
課長補佐　宮﨑　俊一
課長補佐兼課主査　白木　守
事務主査　塚本　映子
庶務担当　豊福　早苗
調査担当　熊代　昌之
整理担当　古賀　和子　丸山　裕見子

発掘調査臨時職員
大熊　澄子、大塚ヒロ子、大坪　進、國武　三歳、小西富美子、堤　淳子、原　敏雄、森山美千代、柳　鈴子、山田　治代

発掘調査整理臨時職員
野口　夏希、溝上　直子

３．調査の方法

対象地の南端部に道路が建設されることから、道路の位置に沿って調査区を設定し、調査を実施した。４月10日、重機による表土除去後、人力による遺構検出作業を実施し、遺構の掘り下げを行った。５月１日、スカイマスターによる全体遺構写真撮影を行い、同日重機による埋め戻しを行った。５月９日、全ての機材を撤収し、調査を終了する。なお、遺構測量は、CUBIC 社製ソフト「遺構くん cubic」を用いて測量を行い、写真記録は、モノクロームとカラーリバーサルは６×７で撮影した。

Ⅱ．位置と環境

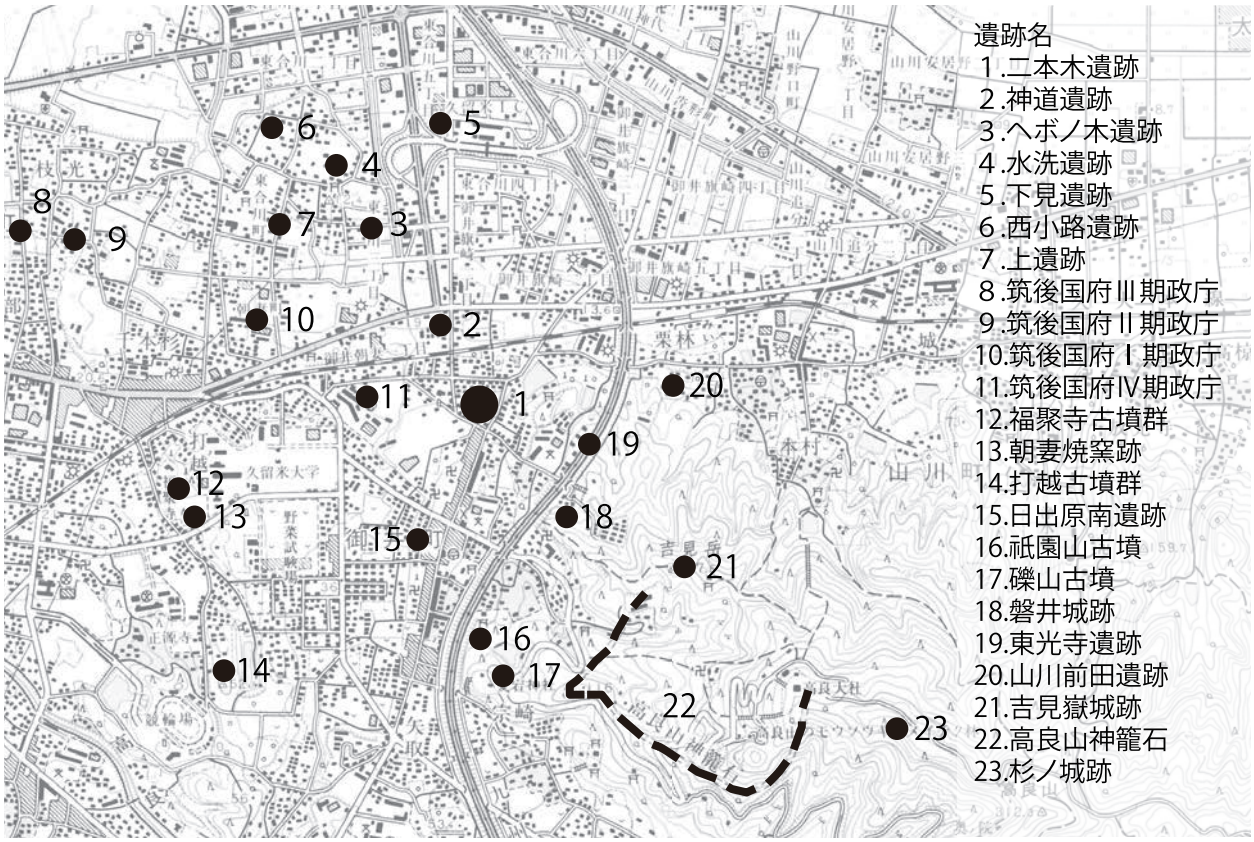
１．地理的環境

調査地は、久留米市御井町に所在する。当地は耳納山地西端部に位置する高良山（312m）より派生する丘陵上、標高約28m地点に仕置する。また、東には耳納山地北麓を東西方向に雁行する水縄断層帯の一部である追分断層から派生する千本杉断層による比高差約７ｍの断層崖があり、段丘崖下には湧水点が存在する。低位段丘北側には九州最大の河川筑後川が西流し、氾濫原を利用した水田が近年まで広がっていた。

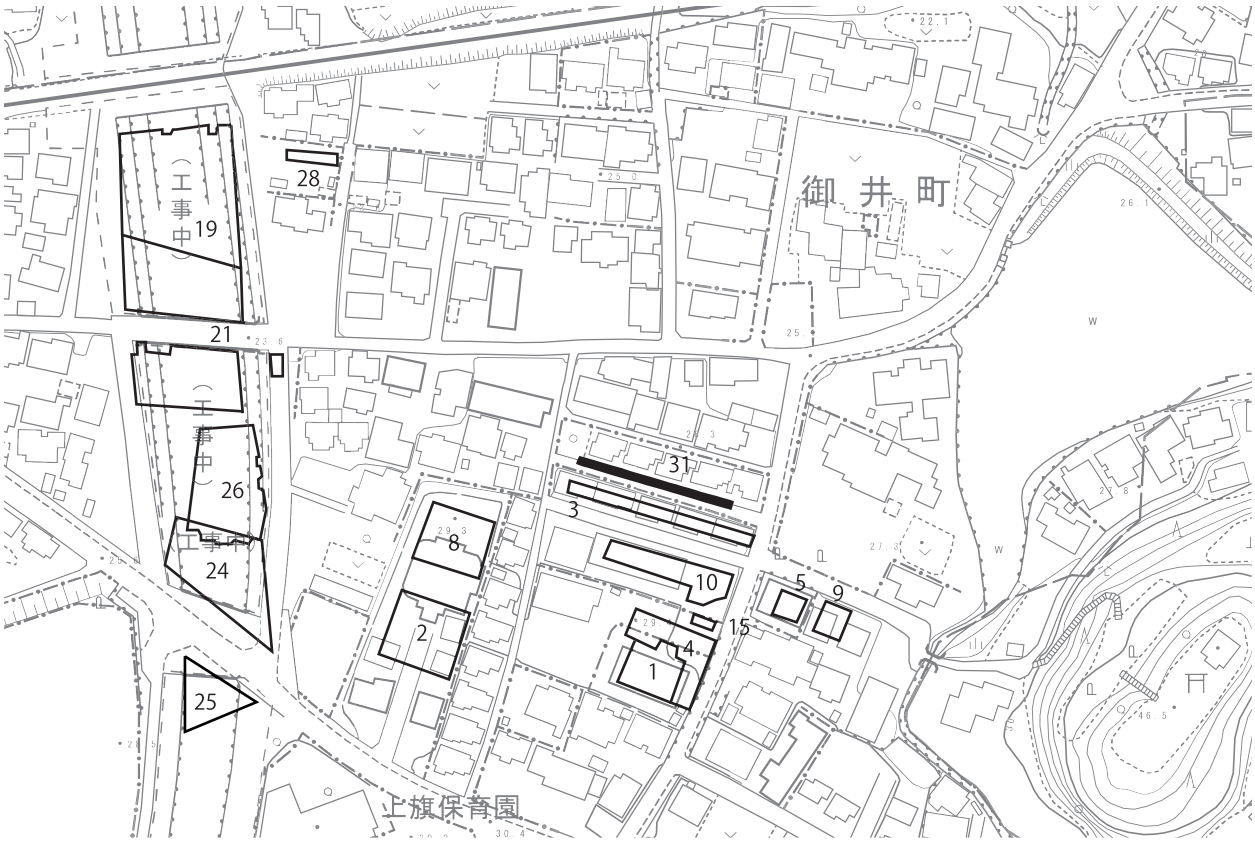
２．歴史的環境

二本木遺跡の所在する御井町中心部には、中世には高良山の鳥居前集落として発展し、近世には薩摩坊ノ津街道の宿場町として発展した街並みが残る。

縄文時代には、横道遺跡から当地最古段階に位置付けられる、隆起線文土器や押型文土器が出土し、草創期から早期にかけて生活の痕跡を窺わせる。また、上遺跡や水洗遺跡からは早期から前期の遺物が確認され、後期御領式段階の西小路遺跡からは、石冠・石棒が検出され東日本との交流を窺わせる。弥生時代になると、ヘボノ木遺跡や二本木遺跡から中期後半の集落が形成されるが、短期間で終焉を迎える。終末期には、朝妻遺跡やヘボノ木遺跡において舶載鏡が出土しているものの、後続する古墳時代の遺構は希薄である。７世紀末には筑後国府が合川町に設置され、以後４期にわ



第１図　二本木遺跡周辺の主要遺跡分布図（1/25000）



第２図　二本木遺跡第31次調査周辺地形図（1/2500）

たる変遷をしながら12世紀まで継続する。また、ヘボノ木遺跡には、回廊状遺構を伴う寺院形式の施設が築かれる。中世になると高良山一帯には多くの山城が築かれ、軍事上の要衝となる。近世には、薩摩坊ノ津街道が整備され、御井町中心地は府中宿として大きな発展をとげる。

Ⅲ．調査の記録

１．調査の経過

二本木遺跡第31次調査地点は、久留米市御井町1591-1、1591-2 に所在する。分譲住宅の道路部分、長さ約４m、幅約54mの地点を調査の対象とし調査を開始した。

平成26年４月10日に重機による表土剥ぎを行い、併行して人力による遺構検出を開始した。11日より遺構掘り下げを開始し、完掘した遺構からトータルステーションによる遺構測量を行った。遺構完掘後、個別写真撮影を随時行い、５月１日スカイマスターを用いた全景写真撮影を実施し、７日、埋め戻しを行う。９日、全ての機材を撤収し現場作業を終了する。調査面積は162㎡であった。

２．検出遺構

遺構面は、表土下約10～50㎝、表土直下にて検出した。検出面は、東から西に向かい傾斜しており、西に行くほど検出面は深くなる。また、調査地中央に倒木痕跡があるため一部サブトレンチを

設置し遺構の検出を行なっている。主な遺構は、弥生時代の溝１条と土坑１基、奈良平安時代の土坑１基、竪穴建物２棟、中世の土坑７基、ピットおよび倒木痕を確認した。

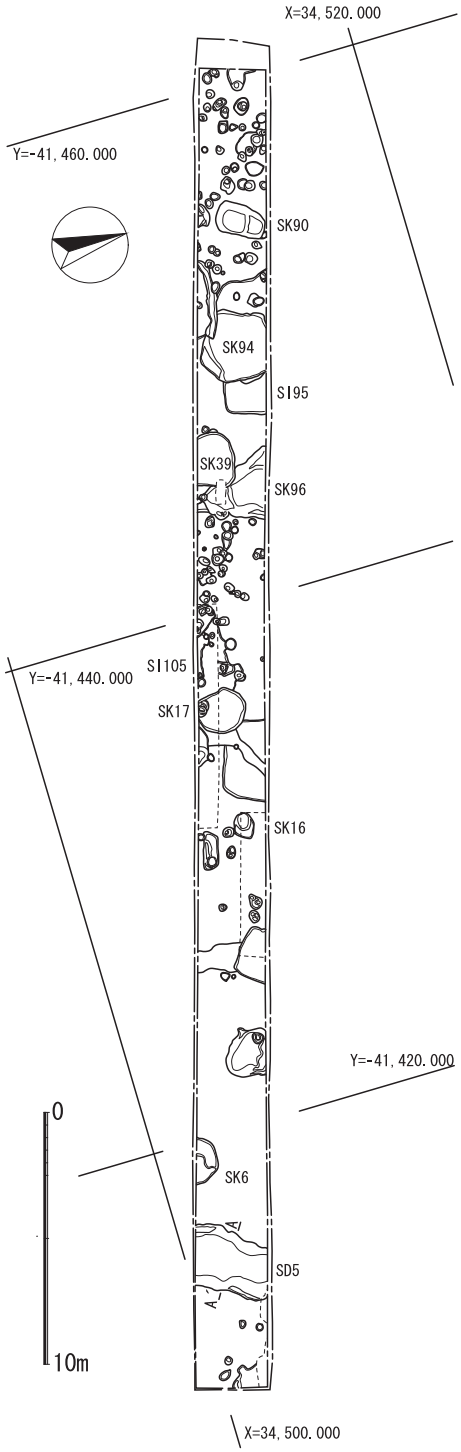
ａ．溝

ＳＤ５（第４図，図版１）　調査区東部より検出された断面逆台形の南北溝である。調査区内での長さ3.0m、幅2.51m、深さ0.6mを測る。埋土は、暗褐色土と黒色土で大量の弥生土器を多く含む。この溝は、過年度調査でも検出されており、集落を限る溝と考えられる。また溝の底面部は、褐色系の細やかな粒子の土が検出されており、礫を多く含む周囲の地山とは土質が異なる。これは、水の流れに由来するもので、チャネルと呼ばれる。本遺構は、礫を含まず、掘削が比較的容易なチャネルを利用し掘り込まれている。遺構完掘後、確認のため北半部を掘り下げたが、２mを超えても褐色土は堆積していた。遺物は、弥生土器の甕・壷・高坏、紡錘車などが出土した。

ｂ．竪穴建物

ＳＩ95（第５図，図版１）　調査区西に位置する方形の竪穴建物で、長軸3.84m、短軸1.7m以上、深さ0.45mを測る。主軸をＮ－73°－Ｗにとり、西壁中央部に竈を敷設する。遺構の中央をＳＫ94に切られ、北半部が調査区外に伸びるため、柱穴等は不明である。竈は残存状況が悪く、袖の検出には至らなかったが、燃焼部付近より甕が伏せられた状態で出土しており、支脚と考えられる。出土遺物は、土師器・須恵器の細片が出土している。

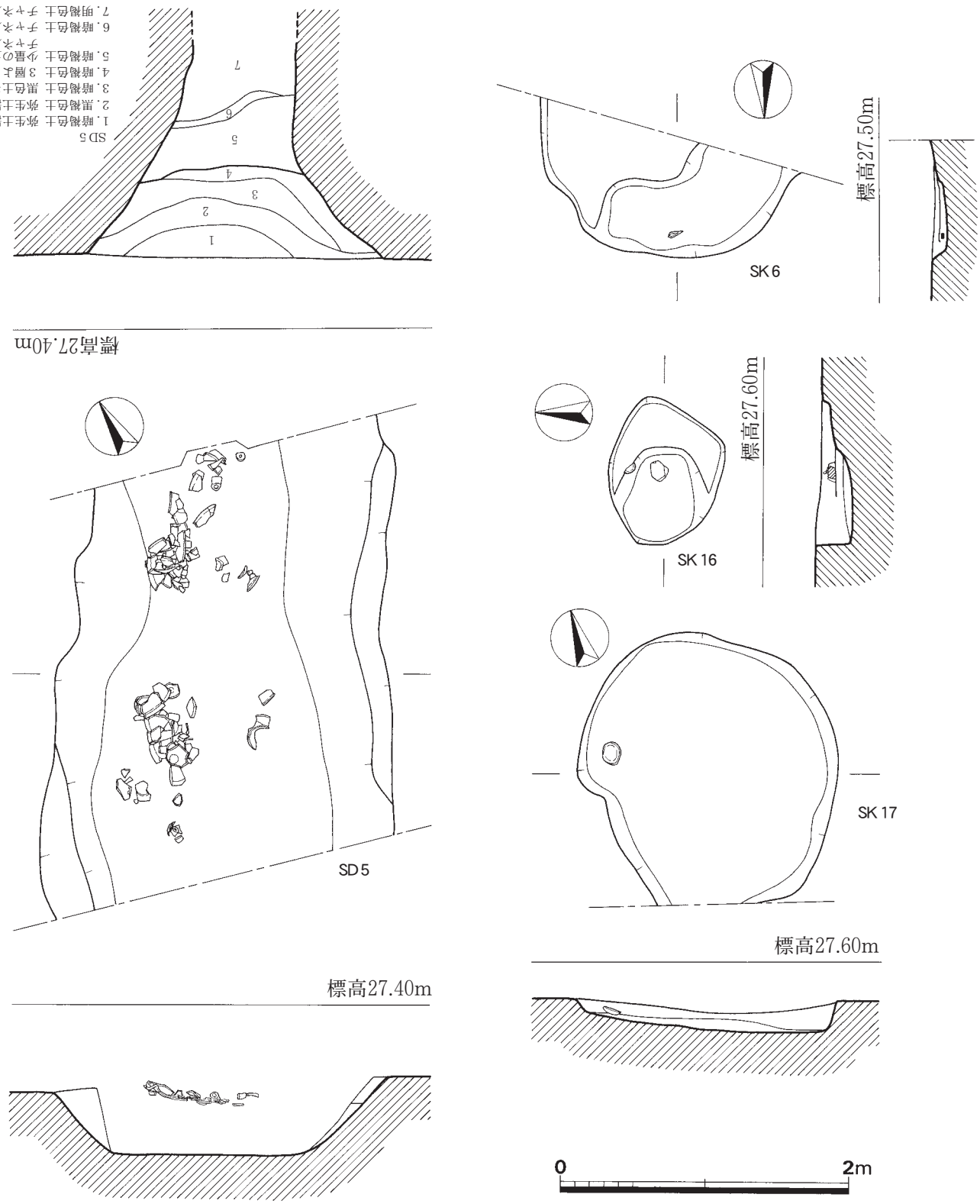
ＳＩ105（第３図，図版１）　調査区中央に位置する方形の竪穴建物で、長軸２m以上、短軸1.7m以上、深さ0.08mを測る。北壁中央部に竈の痕跡を思わせる焼土を検出した。遺構はＳＫ17およびピットに切られ、辛うじて床面を検出できる程度と残存状況が悪いため、詳細は不明である。竈も残存状況が悪く僅かに痕跡を残すのみであった。出土遺物は、土師器・須恵器の細片が出土している。



第３図　二本木遺跡第31次調査遺構配置図（1/300）

ｃ．土坑

ＳＫ６（第４図，図版１）　調査区東部に位置する円形土坑で、直径1.82m、深さ0.12mを測る。



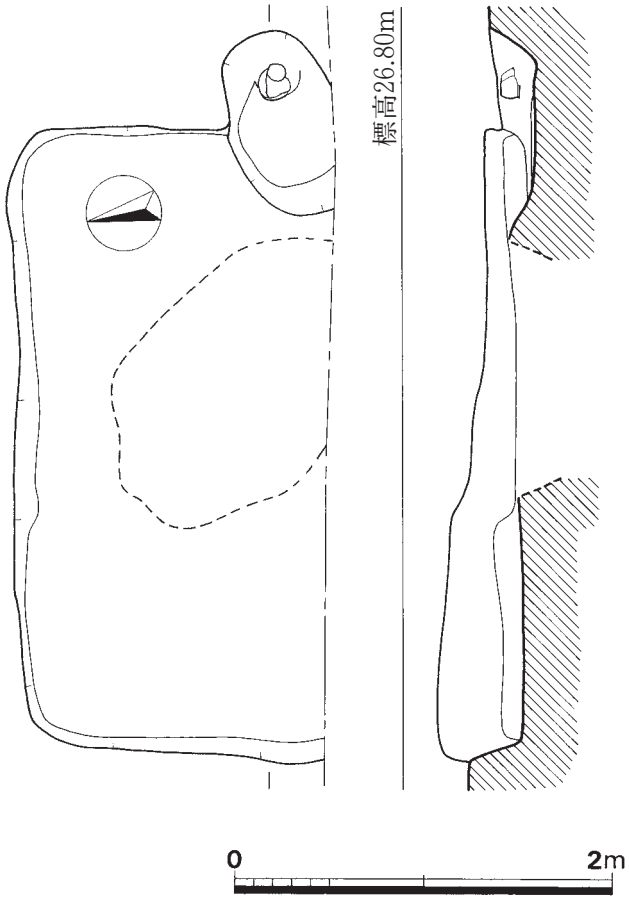
第４図　ＳＤ５、ＳＫ６・16・17実測図（1/40）

遺構の約半分が調査区外に伸びる。遺構は、暗褐色土によって覆われており、埋土中からは、土師器小皿、鉄釘等が出土している。

ＳＫ16（第４図，図版２）　調査区中央に位置する円形土坑で、長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.27mを測る。暗褐色土によって覆われており、埋土中からは、土師器細片が出土している。

ＳＫ17（第４図，図版２）　調査区中央に位置する円形土坑で、長軸1.85m以上、短軸1.83m、深さ0.21mを測る。遺構は、暗褐色土によって覆われており、埋土中からは、ほぼ完形の土師器小皿・坏・須恵器・瓦器・青磁が出土しており、廃棄土坑と考えられる。

ＳＫ39（第６図，図版２）　調査区中央に位置する円形土坑で、長2.16m、短軸1.6m 以上、深さ0.34mを測る。暗褐色土によって覆われており、埋土中からは、多量の完形土師器坏・小皿、および須恵器、瓦器、白磁、青磁が出土しており、廃棄土坑と考えられる。

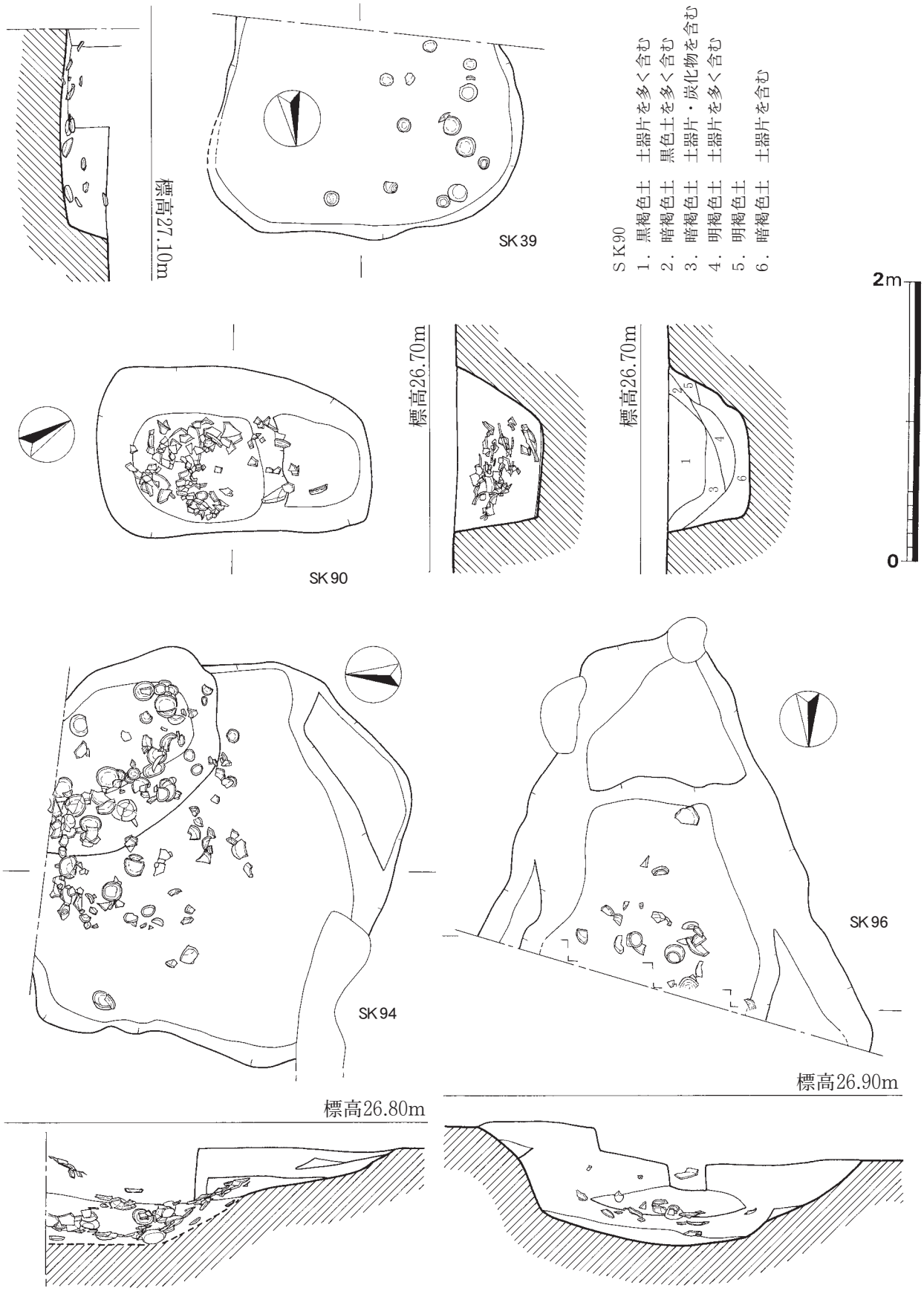


第５図　ＳＩ95実測図（1/40）

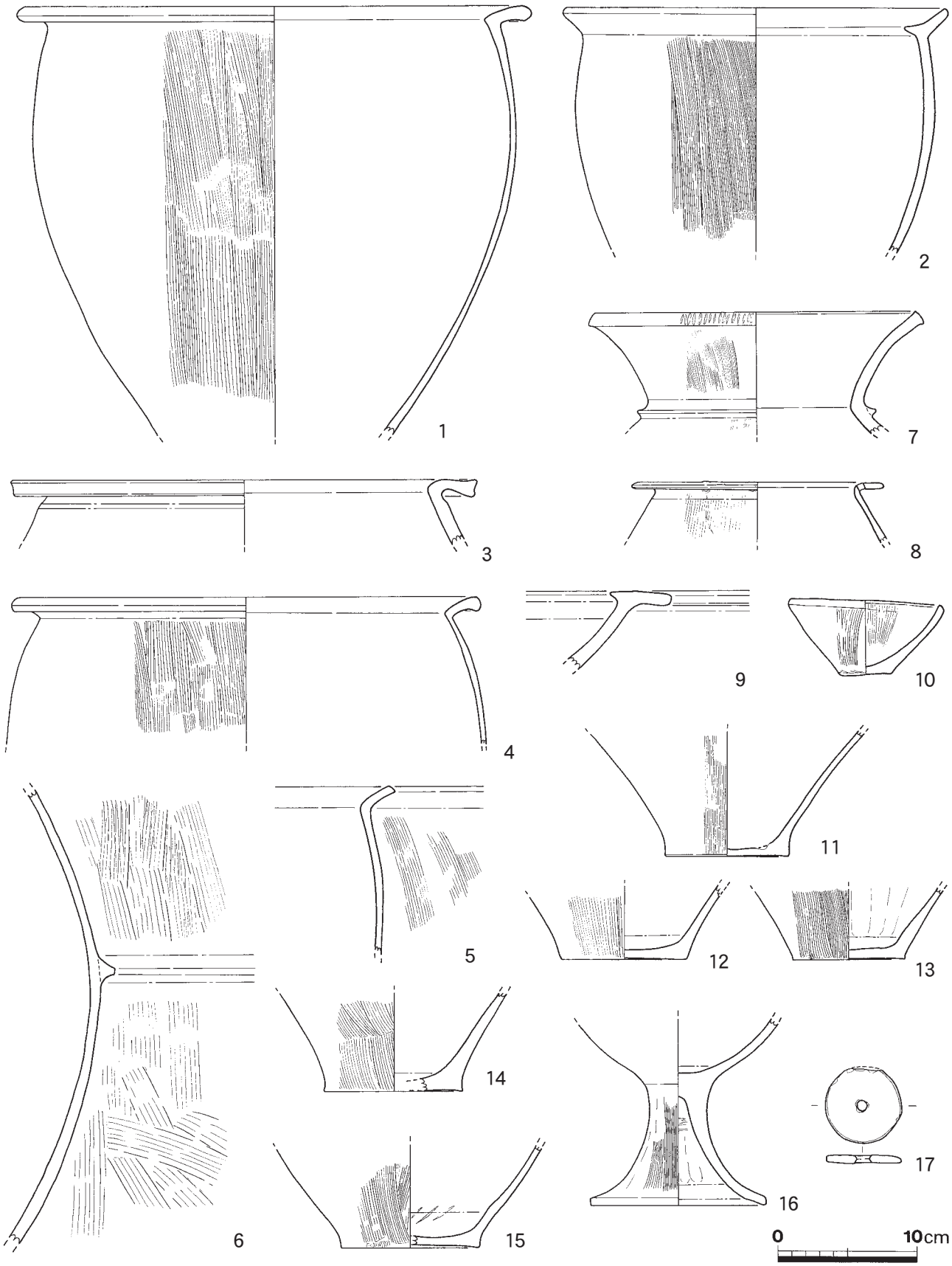
ＳＫ90（第６図，図版２）　調査区西に位置する隅丸方形土坑で、長軸1.93m、短軸1.22m、深0.61mを測る。土坑底面の北半にはテラス状の段を有する。遺構は、黒褐色土によって覆われており、埋土中からは、弥生土器甕・壷・高坏等が出土している。出土土器の中には丹塗壷が含まれており祭祀土坑の可能性がある。

ＳＫ94（第６図，図版２）　調査区西に位置するＳＩ95を切る方形土坑で、長軸2.9m、短軸2.5m 以上、深さ0.77mを測り、南西部が一段深く下がる。遺構は、暗褐色土によって覆われており、埋土中からは、完形の土師器坏・小皿、および瓦器、白磁、青磁、青白磁等が出土している。土師器坏・皿は、土坑内から100点を超える数が集中的に出土しており一括廃棄された状況を示す。

ＳＫ96（第６図，図版２）　調査区西に位置する不整形土坑で、ＳＫ39に切られる。長軸2.7m以上、短軸2.5m、深さ0.88mを測り、北半部は調査区外に伸びる。遺構は、暗褐色土によって覆われており、埋土中からは、土師器・須恵器・黒色土器・鉄器等が出土している。



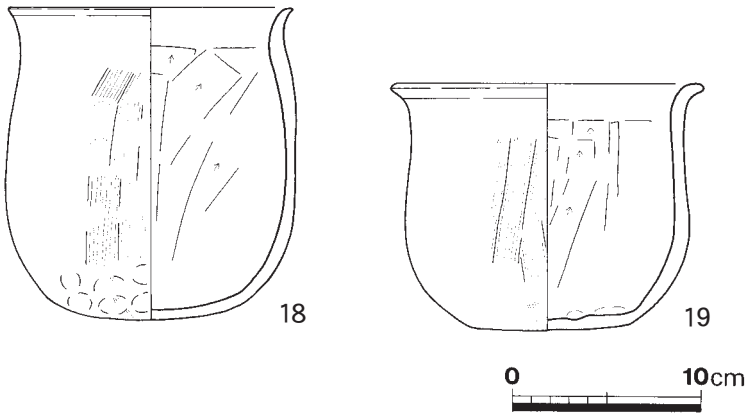
第６図　ＳＫ39・90・94・96実測図（1/40）



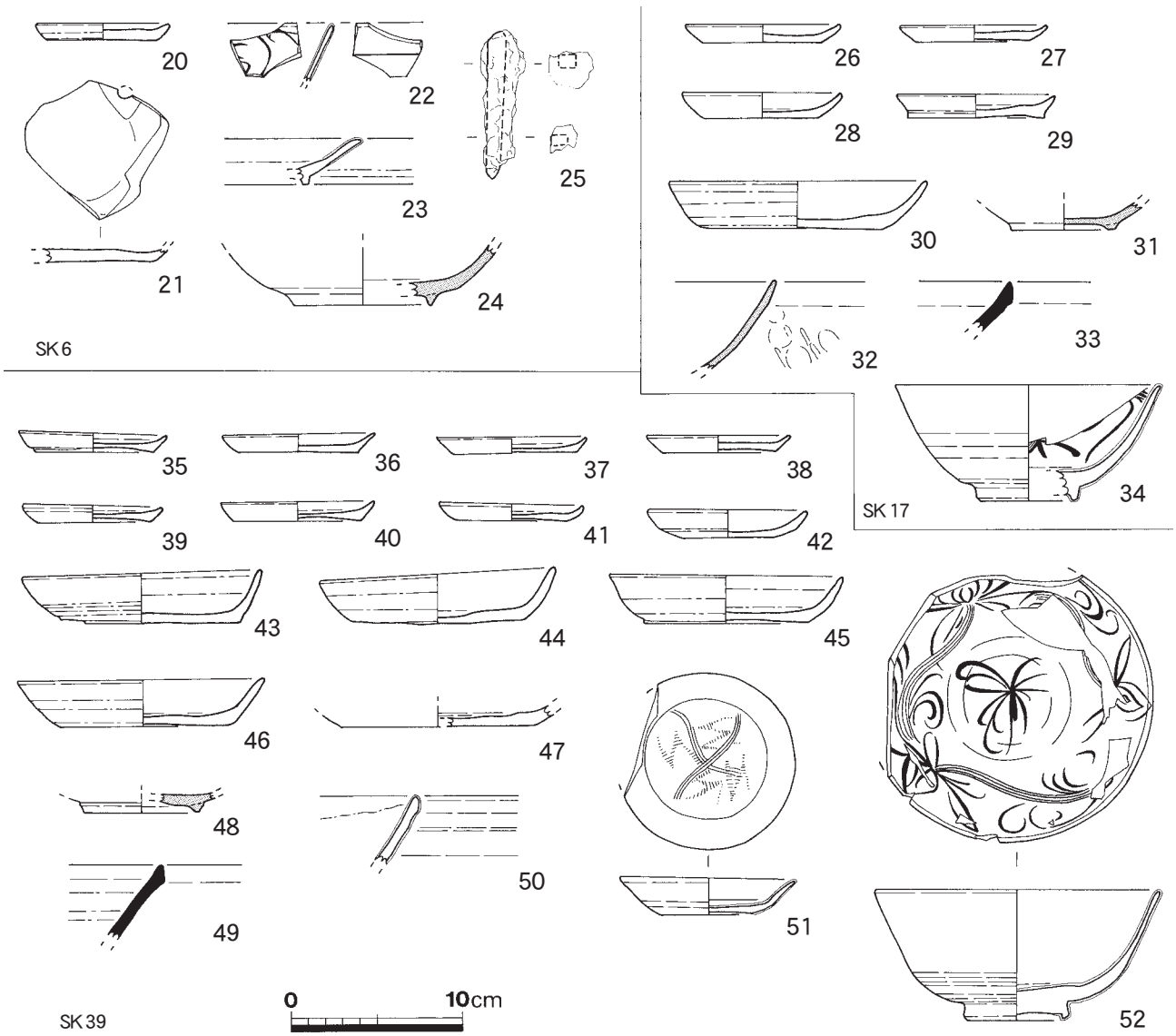
第７図　ＳＤ５出土遺物実測図（1/４）

３．出土遺物

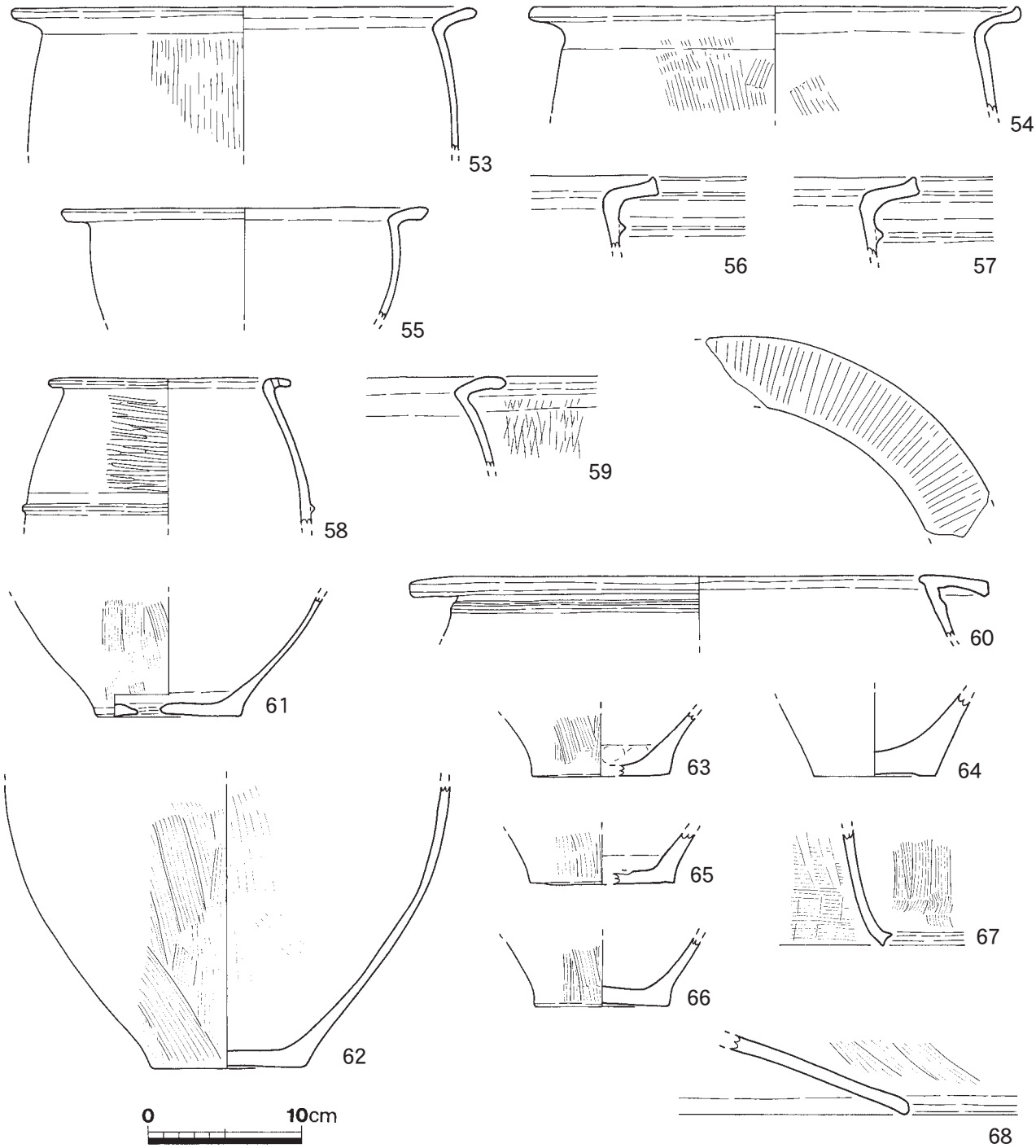
遺物は、パンコンテナー12箱が出土している。出土遺物の時期は、弥生時代中期後半のＳＤ５、ＳＫ90、８世紀後半から９世紀のＳＩ95・105、ＳＫ96、11世紀から12世紀のＳＫ６・16・17・39・94に大別される。遺物の詳細は出土遺物観察表に記しているため参照とされたい。以下に代表的な遺物についてのみ記述する。なお、輸入陶磁器については大宰府分類を用いている。



第８図　ＳＩ95出土遺物実測図（1/4）

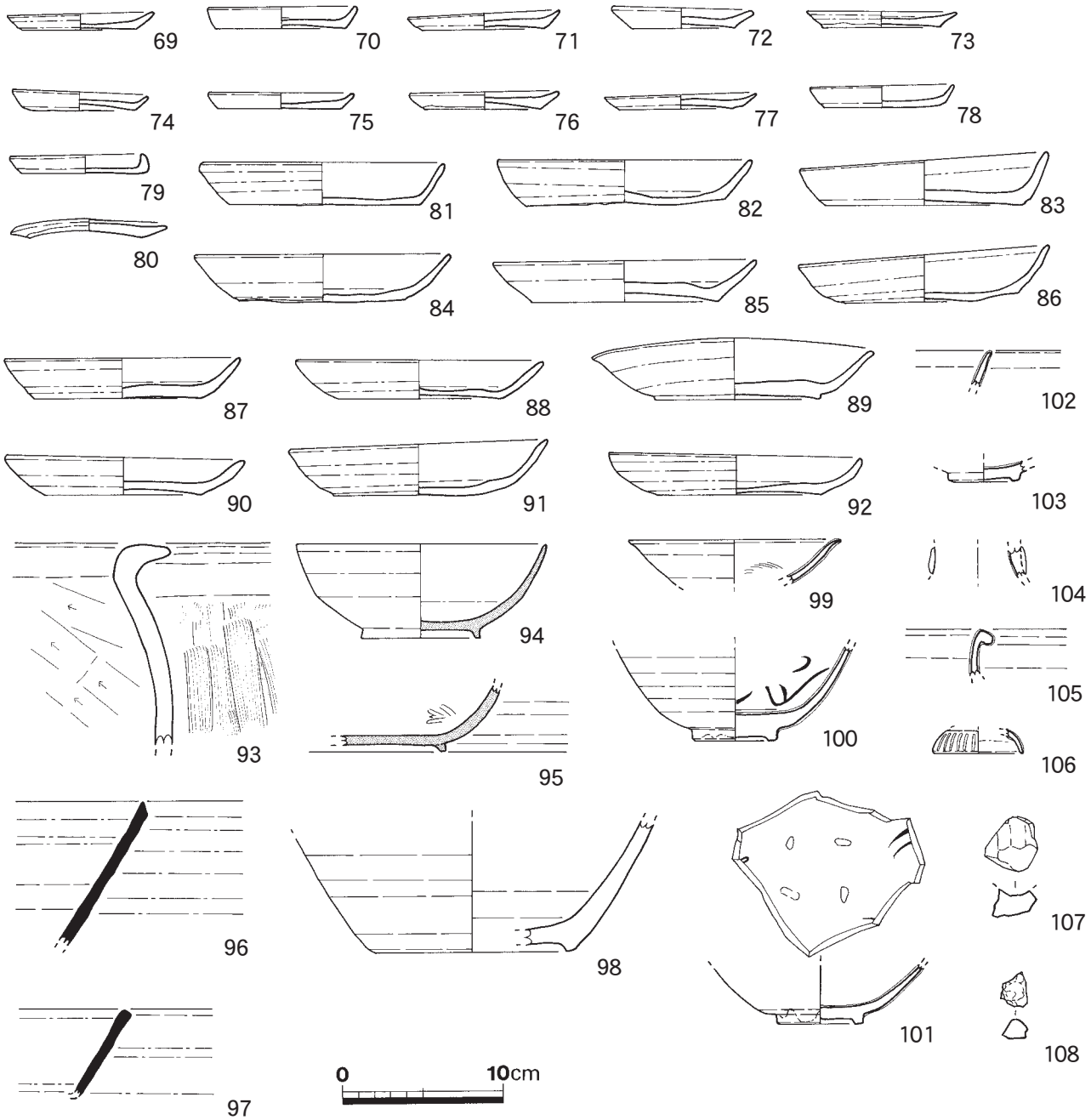


第９図　ＳＫ６・17・39出土遺物実測図（1/4）



第10図　ＳＫ90出土遺物実測図（1/4）

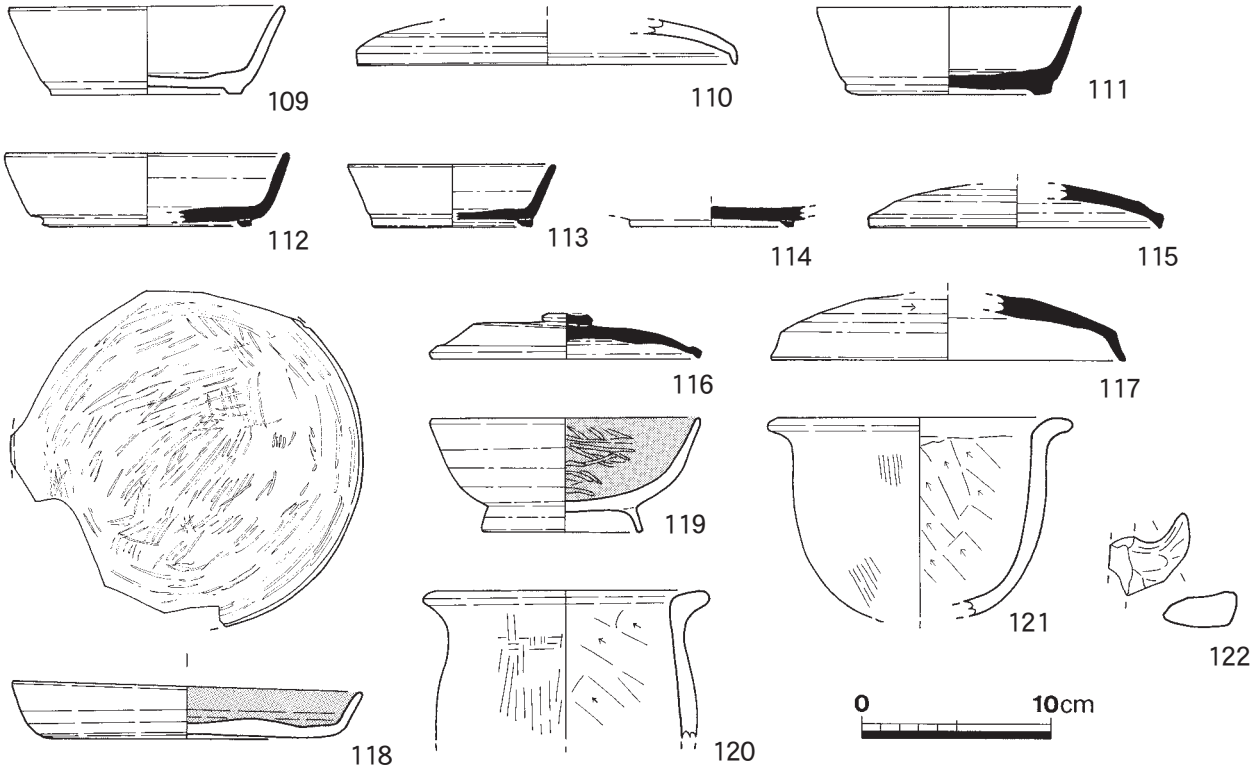
ＳＤ５からは、溝の検出面から中層にかけ大量の弥生土器が出土している。**7**は、丹塗りの壷。８は壷で口縁部に蓋留めの穿孔を施す。**16**は丹塗りの高坏。**17**は片岩製の紡錘車で直径5.4㎝を測る。ＳＩ95からは、甕が２点出土している。**18**は竈の燃焼部付近から口縁部を下に伏せた状態で出土しており、支脚として転用されたものである。**19**は、床面付近から出土した。ＳＫ６出土遺物は、細片が多いものの糸切り底の小皿（**20**）坏（**21**）、や龍泉窯系青磁碗（**22**）、鉄釘（**25**）等が出土している。ＳＫ17は底面付近より、土師器小皿・坏を主とした遺物が多く出土している。**26**～**29**は土



第11図　ＳＫ94遺物実測図（1/4）

師器小皿で28はヘラ切り、その他は糸切り底。34は龍泉窯系青磁碗Ⅰ類。ＳＫ39からは、中層から底面付近にかけ、土師器小皿・坏を主体とした遺物が多く出土している。35～42は土師器小皿、43～47は土師器坏で、全て糸切底。51は同安窯系青磁皿。52は龍泉窯系青磁碗で、内面に片彫蓮花文を有する。

ＳＫ90からは多くの弥生土器が出土している。58は丹塗壷で口縁部に穿孔を有する。60は、丹塗り壷で暗文を施す。61は焼成前穿孔を有する壷。64は丹塗壷。ＳＫ94からは、調査区内で最も多くの遺物が出土している。その大半は、土師器小皿・坏を主体としたもので、同時期のＳＫ17・39等



第12図　ＳＫ96遺物実測図（1/4）

と同様である。69～80は土師器小皿、全て糸切り底で、79は耳皿状に口縁部を屈曲させる。81～92は土師器坏で全て糸切り底。96・97は東播系の鉢。104・105は白磁瓶。106は青白磁合子蓋。107は鞴羽口、108は鉄滓と鍛冶関連遺物が出土する。ＳＫ96出土遺物からは、土師器・須恵器・黒色土器が出土している。114が須恵器坏、内面に使用痕があり転用硯と考えられる。118は黒色土器皿、内面にミガキを施す。

Ⅳ. 総　括

今回の調査は、宅地造成予定地の道路部分という非常に限定された場所の調査であったが、比較的多くの遺構・遺物が確認された。検出された遺構は、弥生時代中期後半、８世紀後半から９世紀、11世紀から12世紀の３時期に大別される。

弥生時代中期後半には、ＳＤ５とＳＫ95が掘り込まれる。ＳＤ５は、過年度の調査によって最大幅５ｍ、総延長120ｍ以上にわたることが確認されている。この溝は、高良山より派生する丘陵を分断するように南北に走っているため、区画溝として機能していたと想定される。また、溝の掘り込みにあたっては、礫の多い地山部分ではなく水路に起因した細やかな粒子の土壌で埋まったチャネル部分を掘り下げており、掘り込みが容易な部分を選択し掘削がなされた状況を示している。また、今回の調査では住居跡等の生活施設は検出されなかったが、ＳＫ90からは、丹塗土器等も検出されており、周辺では祭祀行為等が行われていたことも想定される。

８世紀後半から９世紀にかけては、竪穴建物２棟と土坑１基が検出され、集落域が展開していた状況を示す。

最も遺構が多いのが11世紀後半から12世紀にかけての時期で、土坑を主とする遺構群が広がる。土坑は、ＳＫ17・39・94の様に、大量の土師器坏・皿を伴う廃棄土坑が多く、周辺の調査でもこの傾向は強い。この時期は、調査区西方に筑後国府Ⅳ期政庁が置かれた時期に相当し、二本木遺跡から検出された当該期の遺構群は、このⅣ期政庁と密接にかかわるものと考えられる。

第１表　出土遺物観察表①

遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整・文様		胎土	備考	登録番号
				口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	外面	内面	外面	内面			
1 第７図・図版２	ＳＤ５	弥生土器	甕	[37.0]	－	(30.7)	褐	橙～灰褐	ハケ目・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	細砂粒（金雲母）		201401 000012
2 第７図・図版２	ＳＤ５	弥生土器	甕	27.7	－	(17.5)	にぶい黄褐	にぶい黄褐	ハケ目・ヨコナデ	ハケ目→ナデ	微砂粒		201401 000014
3 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	甕	[33.4]	－	(4.7)	橙	橙	ヨコナデ	ナデ	微砂粒（金雲母・赤色粒子）		201401 000001
4 第７図	ＳＤ５	弥生土器	甕	[33.0]	－	(10.5)	褐	橙	ハケ目・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401 000004
5 第７図	ＳＤ５	弥生土器	甕	－	－	(12.1)	浅黄橙	黄橙	ハケ目・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000010
6 第７図	ＳＤ５	弥生土器	甕	－	－	(31.6)	にぶい褐	橙	ハケ目・ヨコナデ	ナデ	細砂粒（金雲母）		201401 000044
7 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	壷	[23.0]	－	(8.8)	にぶい橙	にぶい黄橙	ハケ目・ヨコナデ・キザミ	ヨコナデ	微砂粒（金雲母）	丹塗り	201401 000030
8 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	壷	[18.0]	－	(4.3)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ目・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒	口縁部穿孔あり	201401 000031
9 第７図	ＳＤ５	弥生土器	高坏	－	－	(5.6)	にぶい黄橙	橙	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	細砂粒（赤色粒子）		201401 000038
10 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	鉢	11.1	3.8	5.0～5.6	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ・オサエ	微砂粒		201401 000028
11 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	甕	－	[8.9]	(9.0)	にぶい黄橙	にぶい褐	ハケ目・ナデ	ナデ・オサエ	細砂粒（石英、角閃石）		201401 000021
12 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	甕	－	8.0	(5.3)	橙	橙	ハケ目・ナデ	ナデ	細砂粒		201401 000019
13 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	甕	－	[8.0]	(5.1)	灰黄褐	にぶい橙	ハケ目・ナデ	ナデ・オサエ	細砂粒（赤色粒子）	底部圧痕あり	201401 000017
14 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	甕	－	[10.0]	(5.1)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ目・ナデ	ナデ	微砂粒（角閃石）		201401 000020
15 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	甕	－	10.0	(7.4)	浅黄橙	橙～黒	ハケ目・ナデ	ナデ・オサエ	細砂粒（角閃石）		201401 000015
16 第７図・図版３	ＳＤ５	弥生土器	高坏	－	12.4	(13.4)	橙	橙～明赤褐	ケズリ→ハケ目・ナデ	ナデ	微砂粒	丹塗り	201401 000033
17 第７図・図版４	ＳＤ５	石製品	紡錘車	5.4	5.4	0.6	灰白	灰白	－	－		重：33.0ｇ	201401 000003
18 第８図・図版３	ＳＩ95	土師器	甕	15.3	丸底	(16.5)	橙～灰黄褐	にぶい黄橙	オサエ・ハケ目・ヨコナデ	ケズリ・ヨコナデ	砂粒		201401 000476
19 第８図・図版３	ＳＩ95	土師器	甕	[16.6]	[8.6]	(13.1)	橙～にぶい褐	橙	ハケ目ヨコナデ	ケズリ・オサエ・ヨコナデ	細砂粒（金雲母）		201401 000477
20 第９図・図版３	ＳＤ６	土師器	小皿	[7.8]	[6.4]	(1.1)	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000045
21 第９図・図版３	ＳＤ６	土師器	坏	－	－	(0.9)	灰黄～橙	灰黄～橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	細砂粒（赤色粒子）	穿孔？	201401 000047
22 第９図・図版３	ＳＤ６	青磁	碗	－	－	(3.2)	灰オリーブ（釉）	灰白（素地）	ヨコナデ	片彫蓮花文	精良	龍泉窯系	201401 000051
23 第９図・図版３	ＳＤ６	白磁	皿	－	－	(2.7)	灰白（釉）	灰白（素地）	ヘラケズリヨコナデ	ヨコナデ釉掻き取り	精良	Ⅲ類	201401 000050
24 第９図・図版３	ＳＤ６	瓦器	埦	－	[8.0]	(3.5)	黄灰	黄灰	ヨコナデ・ナデ	オサエ・ミガキ	微砂粒		201401 000055
25 第９図・図版４	ＳＤ６	鉄製品	釘	8.7	2.7	2.2	茶褐	－	－	－	－		201401 000052
26 第９図・図版３	ＳＫ17	土師器	小皿	[9.1]	[7.0]	(1.1)	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒	重：39.0ｇ	201401 000060
27 第９図・図版３	ＳＫ17	土師器	小皿	[8.6]	6.6	(0.9)	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000061
28 第９図・図版３	ＳＫ17	土師器	小皿	[9.3]	[6.6]	(1.5)	橙	橙	ヘラ切り・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000059
29 第９図・図版３	ＳＫ17	土師器	小皿	[9.2]	[8.0]	(1.4)	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000062
30 第９図・図版３	ＳＫ17	土師器	坏	15.1	10.3	2.7～2.9	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000067
31 第９図・図版３	ＳＫ17	瓦器	埦	－	6.0	(1.6)	灰黄	黄灰	ヘラ切り・ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000070
32 第９図	ＳＫ17	瓦器	埦	－	－	(5.2)	灰白～褐灰	褐灰	ナデ・オサエ→ミガキ	ヨコナデ・ナデ・オサエ	微砂粒		201401 000069
33 第９図	ＳＫ17	須恵器	鉢	－	－	(2.9)	黄灰	黄灰	ヨコナデ	ヨコナデ	微砂粒		201401 000071
34 第９図・図版３	ＳＫ17	青磁	碗	[15.6]	[5.5]	(6.8)	オリーブ黄（釉）	灰黄（素地）	ヘラケズリ・ヨコナデ	片彫蓮花文	精良	龍泉窯系 Ⅲ類	201401 000072

第２表　出土遺物観察表②

遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整・文様		胎土	備考	登録番号
				口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	外面	内面	外面	内面			
35 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	8.7	7.0	1.0～1.3	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401000139
36 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	8.9	7.0	1.0～1.2	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000140
37 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	8.8	7.2	1.0	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000142
38 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	8.5	6.6	1.0	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000152
39 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	8.2	6.6	0.9～1.1	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000144
40 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	8.9	7.3	1.1～1.2	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401000145
41 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	8.5	6.5	0.9～1.1	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401000149
42 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	小皿	[9.4]	[5.2]	(1.7)	灰白～暗灰	灰白～暗灰	糸切り（板目）・ヨコナデ	ナデ→ミガキ	微砂粒		201401000119
43 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	坏	14.0	10.4	2.8～3.2	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000146
44 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	坏	13.8	10.1	2.6～3.3	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000147
45 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	坏	13.6	9.7	2.8～3.0	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000150
46 第９図・図版３	ＳＫ39	土師器	坏	14.5	9.7	2.6～2.8	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401000148
47 第９図	ＳＫ39	土師器	坏	－	[11.2]	(1.3)	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000143
48 第９図・図版３	ＳＫ39	瓦器	埦	－	[6.7]	(1.2)	黄灰	灰黄	接合ナデ・ナデ	ナデ→ミガキ	微砂粒		201401000126
49 第９図・図版３	ＳＫ39	須恵器	鉢	－	－	(4.5)	灰	灰	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂粒	自然釉	201401000125
50 第９図・図版３	ＳＫ39	白磁	碗	－	－	(4.0)	浅黄（釉）	灰白（素地）	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	精良		201401000132
51 第９図・図版３	ＳＫ39	青磁	小皿	10.3	5.5	2.0～2.3	灰オリーブ（釉）	灰黄（素地）	底部釉掻き取り	櫛点描文ヘラ文様	精良	同安窯系Ⅰ類-２ｂ	201401000102
52 第９図・図版３	ＳＫ39	青磁	碗	[16.8]	5.6	(7.6)	オリーブ黄（釉）	灰白（素地）	ヘラケズリヨコナデ	片彫蓮花文	精良	龍泉窯系Ⅰ類-２ａ	201401000101
53 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	甕	[30.2]	－	(9.4)	にぶい黄橙～灰黄褐	灰白～にぶい黄橙	ハケ目・ヨコナデ	摩耗	細砂粒		201401000178
54 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	甕	[32.0]	－	(6.9)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ目・ヨコナデ	ハケ目・ヨコナデ	細砂粒（石英、角閃石）		201401000175
55 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	甕	[23.8]	－	(7.3)	橙	橙	摩耗	摩耗	細砂粒		201401000176
56 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	甕	－	－	(4.7)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂粒		201401000179
57 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	壷	－	－	(5.3)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ハケ目・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	細砂粒		201401000197
58 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	壷	[15.6]	－	(9.6)	にぶい赤褐	にぶい赤褐	ミガキ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒	丹塗り 口縁部穿孔あり	201401000203
59 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	甕	－	－	(5.8)	にぶい橙	にぶい橙	ハケ目・ヨコナデ	ナデ	細砂粒（角閃石）		201401000177
60 第10図・図版３	ＳＫ90	弥生土器	壷	[37.8]	－	(4.1)	明赤褐	明赤褐	ヨコナデ	ヨコナデ	微砂粒（角閃石）	丹塗り 暗文あり	201401000194
61 第10図・図版４	ＳＫ90	弥生土器	壷	－	[9.5]	(7.9)	橙～にぶい黄橙	橙	ハケ目	ナデ	細砂粒	底部穿孔あり	201401000206
62 第10図・図版４	ＳＫ90	弥生土器	壷	－	[10.1]	(18.5)	橙	にぶい黄橙	ハケ目	ハケ目→ナデ	細砂粒（角閃石）		201401000209
63 第10図・図版４	ＳＫ90	弥生土器	甕	－	[9.0]	(4.2)	にぶい黄橙	灰褐	ハケ目→ナデ	ナデ・オサエ	細砂粒		201401000186
64 第10図・図版４	ＳＫ90	弥生土器	壷	－	[8.0]	(5.5)	橙	灰白	ナデ	ナデ	細砂粒（角閃石）	丹塗り	201401000207
65 第10図・図版４	ＳＫ90	弥生土器	甕	－	[9.4]	(3.3)	にぶい黄橙	黄灰	ハケ目・ナデ	ヨコナデ	細砂粒		201401000187
66 第10図・図版４	ＳＫ90	弥生土器	甕	－	8.6	(4.4)	にぶい黄橙～灰黄褐	にぶい黄橙	ハケ目	ナデ	細砂粒		201401000185
67 第10図	ＳＫ90	弥生土器	器台	－	－	(7.5)	にぶい橙	橙	ハケ目・ヨコナデ	ハケ目→ナデ	砂粒（金雲母、角閃石）		201401000190
68 第10図・図版４	ＳＫ90	弥生土器	蓋	－	－	(5.1)	浅黄橙	浅黄橙	ハケ目・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	細砂粒		201401000189
69 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.1	7.2	0.9～1.1	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000304
70 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.3	8.1	1.4	にぶい橙～黄灰	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000339
71 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.5	7.6	0.8～1.2	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000347
72 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	8.9	6.4	1.1～1.4	浅黄橙	浅黄橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000348
73 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.4	7.4	1.0	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401000366
74 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	8.5	6.9	1.0～1.3	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000365
75 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.2	7.6	1.0	にぶい橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401000385
76 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.4	7.3	1.0～1.2	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401000386
77 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.6	7.6	0.7～1.0	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401000398
78 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.0	7.3	1.3～1.5	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401000287

第３表　出土遺物観察表③

遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			色調		調整・文様		胎土	備考	登録番号
				口径（長）	底径（幅）	器高（厚）	外面	内面	外面	内面			
79 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	耳皿	8.4	8.0	1.1～1.3	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000340
80 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	小皿	9.8	6.9	0.6～1.2	にぶい黄橙	にぶい黄橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒	歪みが大きい	201401 000305
81 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.3	12.0	2.7	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401 000281
82 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.8	12.3	2.9	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000323
83 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.6	12.2	2.2～3.3	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000279
84 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.9	10.4	3.0	にぶい黄橙	にぶい黄橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）		201401 000324
85 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	16.4	11.6	3.6	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000353
86 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.6	11.2	2.3～3.5	にぶい黄橙	にぶい黄橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000354
87 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	14.7	10.3	2.5	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000311
88 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.5	10.2	2.4	明黄橙	明黄橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000400
89 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	17.5	10.3	3.8	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒	歪みが大きい	201401 000343
90 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.0	9.8	2.2～2.5	浅黄橙	浅黄橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（金雲母）、3～4㎜の礫を含む		201401 000394
91 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.2	10.7	2.9～3.5	にぶい橙	にぶい橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000367
92 第11図・図版４	ＳＫ94	土師器	坏	15.2	10.3	2.3～2.7	橙	橙	糸切り（板目）・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000371
93 第11図	ＳＫ94	土師器	甕	－	－	(12.5)	橙	橙	ハケ目ヨコナデ	ケズリ・ヨコナデ	砂粒（金雲母）		201401 000329
94 第11図・図版４	ＳＫ94	瓦器	埦	[15.6]	7.2	(5.9)	灰白～黄灰	灰白～黄灰	ヘラ切りヨコナデ	ヨコナデオサエ	微砂粒		201401 000299
95 第11図・図版４	ＳＫ94	瓦器	埦	－	－	(4.1)	灰白	灰白～黄灰	ヘラ切りヨコナデ	ミガキ・オサエ	微砂粒		201401 000392
96 第11図	ＳＫ94	須恵器	鉢	－	－	(9.1)	黄灰	黄灰	ヨコナデ	ケズリ	細砂粒		201401 000264
97 第11図	ＳＫ94	須恵器	鉢	－	－	(5.5)	灰黄	灰黄	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂粒		201401 000238
98 第11図・図版４	ＳＫ94	陶器	甕	－	[11.3]	(8.2)	灰黄褐	灰黄	ヘラケズリナデ	ナデ	細砂粒		201401 000310
99 第11図・図版４	ＳＫ94	白磁	碗	[13.2]	－	(2.7)	灰白（釉）	灰黄（素地）	ヘラケズリヨコナデ	櫛目	精良	Ⅳ類	201401 000303
100 第11図・図版４	ＳＫ94	青磁	碗	－	[5.3]	(5.9)	灰オリーブ（釉）	灰黄（素地）	ヘラケズリヨコナデ	花文印文（金玉満堂）	精良	龍泉窯系Ⅰ類	201401 000309
101 第11図・図版４	ＳＫ94	青磁	碗	－	5.4	(3.8)	灰オリーブ（釉）	灰黄（素地）	ヘラケズリヨコナデ	片彫蓮花文	精良	龍泉窯系Ⅰ類目跡４カ所	201401 000319
102 第11図	ＳＫ94	白磁	碗	－	－	(2.2)	灰黄（釉）	灰白（素地）	ヘラケズリヨコナデ	ヨコナデ	精良	Ⅶ類？	201401 000275
103 第11図・図版４	ＳＫ94	白磁	碗	－	－	(1.3)	浅黄（釉）	灰白（素地）	ヘラケズリヨコナデ	ナデ	精良		201401 000276
104 第11図・図版４	ＳＫ94	白磁	瓶	－	－	(2.0)	灰黄（釉）	灰白（素地）	ナデ	ナデ	精良		201401 000277
105 第11図・図版４	ＳＫ94	白磁	瓶	－	－	(2.9)	灰白（釉）	灰白（素地）	ヨコナデ	ヨコナデ	精良		201401 000218
106 第11図・図版４	ＳＫ94	青白磁	合子	[5.0]	－	(1.5)	灰白（釉）	灰白（素地）	型押し	ヨコナデ	精良		201401 000247
107 第11図・図版４	ＳＫ94	土製品	鞴羽口	(3.5)	(3.3)	1.2	にぶい橙	にぶい橙	剥落	ナデ	微砂粒（金雲母）		201401 000270
108 第11図・図版４	ＳＫ94	鉄製品	鉄滓	2.2	1.6	1.2	灰褐	－	－	－		重：4.3ｇ	201401 000322
109 第12図・図版４	ＳＫ96	土師器	埦	[14.6]	[10.0]	(4.7)	浅黄橙	浅黄橙	ヘラ切り・ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒	内面円滑	201401 000442
110 第12図・図版４	ＳＫ96	土師器	蓋	[19.8]	－	(2.4)	橙	橙	ヘラケズリヨコナデ	ヨコナデ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000443
111 第12図・図版４	ＳＫ96	須恵器	埦	[14.0]	10.8	(4.6)	灰白	灰白	ヘラ切り・接合ナデ・ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000448
112 第12図・図版４	ＳＫ96	須恵器	埦	[15.0]	[11.0]	(3.9)	黄灰	黄灰	ヘラ切りヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒		201401 000434
113 第12図・図版４	ＳＫ96	須恵器	埦	[11.0]	[8.2]	(3.3)	灰	灰	ヘラ切りヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	微砂粒	墨痕あり	201401 000455
114 第12図・図版４	ＳＫ96	須恵器	坏	－	[8.6]	(1.1)	黄灰	灰黄	接合ナデナデ	回転ナデ	微砂粒	転用硯（内面に使用痕あり）	201401 000431
115 第12図・図版４	ＳＫ96	須恵器	蓋	[15.2]	－	(2.3)	灰白	灰白	ヘラケズリヨコナデ	ヨコナデ	微砂粒	内面円滑	201401 000446
116 第12図・図版４	ＳＫ96	須恵器	蓋	[14.1]	－	(2.5)	灰黄	灰黄	ヘラ切り・ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	微砂粒		201401 000444
117 第12図・図版４	ＳＫ96	須恵器	蓋	[18.6]	－	(3.5)	灰黄	灰黄	回転ヘラケズリ・ヨコナデ	回転ナデヨコナデ	微砂粒		201401 000427
118 第12図・図版４	ＳＫ96	黒色土器Ａ類	皿	[18.6]	15.2	2.5～3.1	浅黄橙	黒褐	手持ちヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ→ミガキ	微砂粒		201401 000439
119 第12図・図版４	ＳＫ96	黒色土器Ａ類	埦	14.4	8.0	5.9～6.1	橙	にぶい黄橙～褐灰	ヘラ切り・ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ→ミガキ	微砂粒（赤色粒子）		201401 000445
120 第12図	ＳＫ96	土師器	甕	[15.2]	－	(7.8)	にぶい黄橙～橙	にぶい黄橙	ハケ目ヨコナデ	ケズリ・ヨコナデ	細砂粒（金雲母）	丹塗り	201401 000449
121 第12図・図版４	ＳＫ96	土師器	甕	[16.2]	－	(10.6)	橙	にぶい黄橙	ハケ目→ナデ・ヨコナデ	ケズリ・ヨコナデ	微砂粒		201401 000421
122 第12図	ＳＫ96	土師器	把手	4.2	4.0	2.0	橙	橙	ナデ・オサエ	ナデ	細砂粒（長石、石英）		201401 000425

図版１

調査区全景（西から）

調査区全景（東から）

ＳＤ５遺物出土状況（北から）

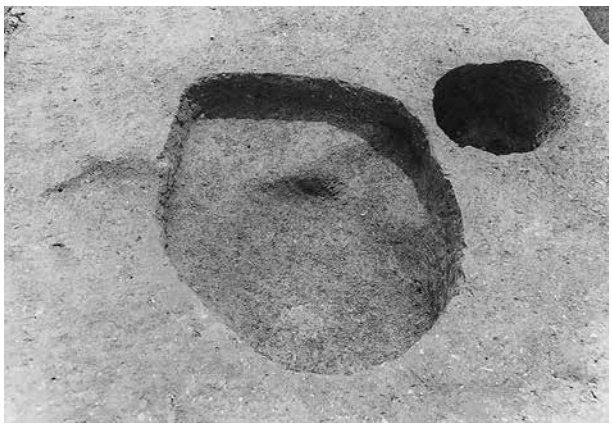
ＳＤ５土層断面（北から）

ＳＩ95竈出土状況（東から）

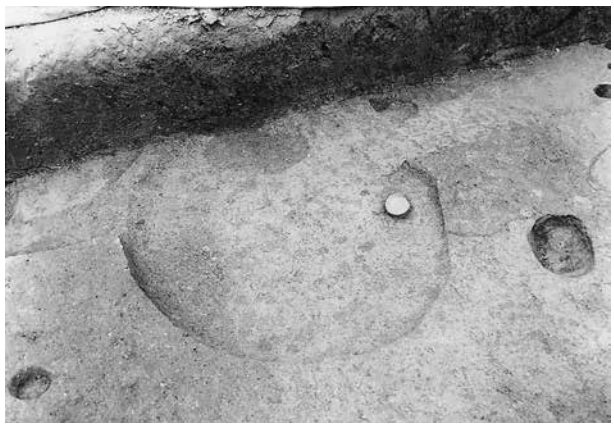
ＳＩ95完掘状況（東から）

ＳＩ105完掘状況（南から）

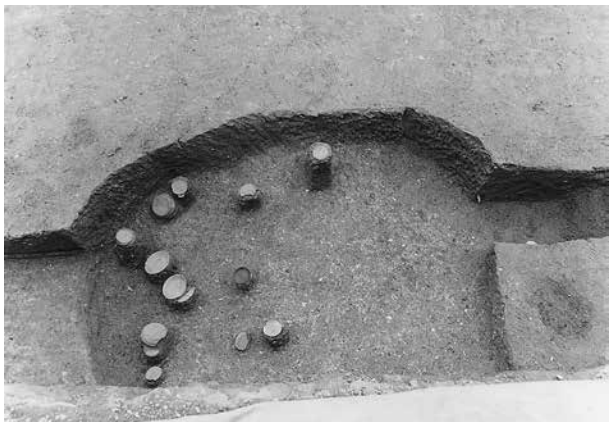
ＳＫ6完掘状況（北から）



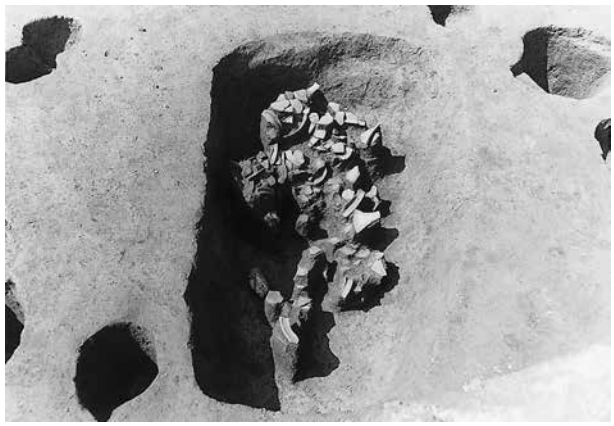
ＳＫ16完掘状況（西から）



ＳＫ17出土状況（北から）



ＳＫ39出土状況（北から）

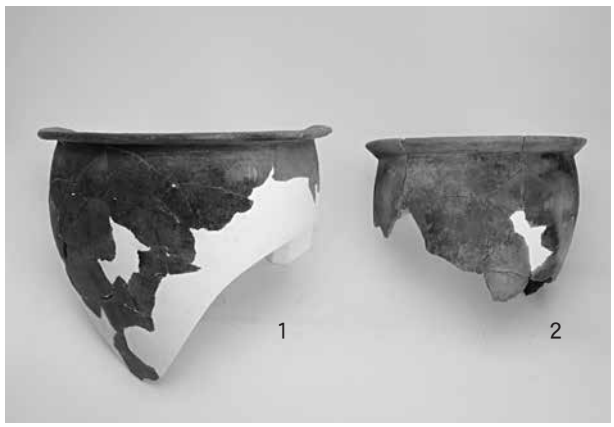


ＳＫ90出土状況（北から）

ＳＫ90完掘状況（北から）

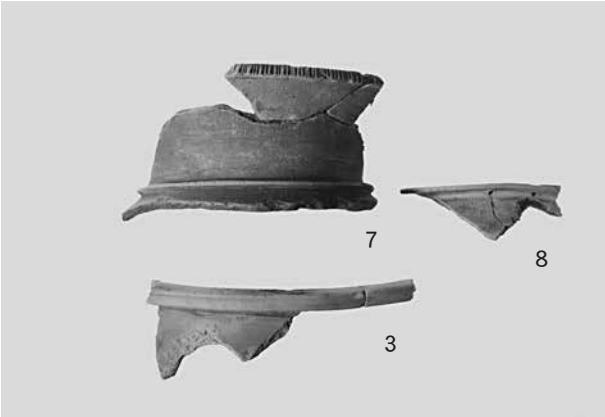
ＳＫ94出土状況（南から）

ＳＫ96出土状況（南から）

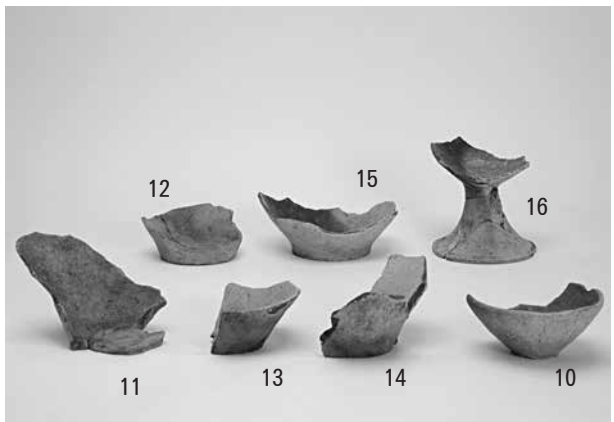


出土遺物１

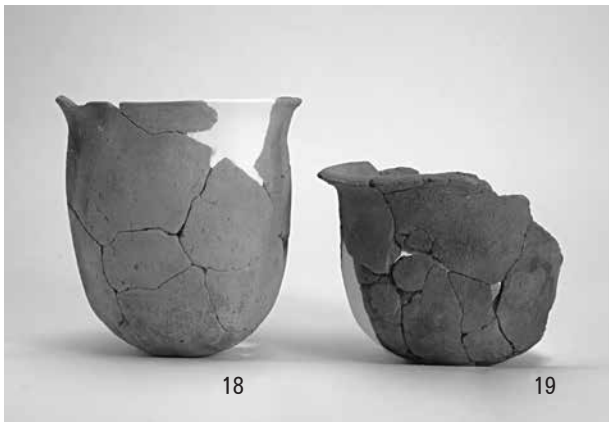
図版３



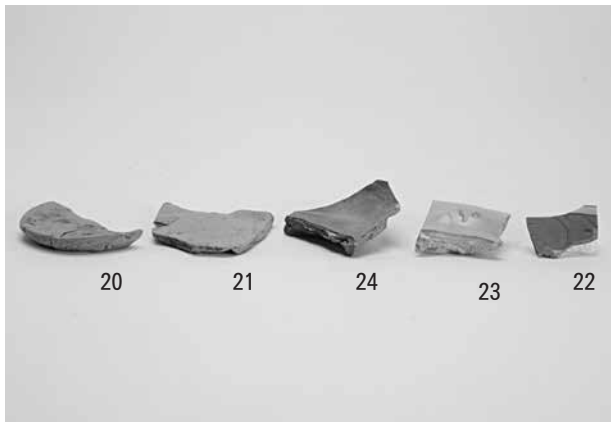
出土遺物２



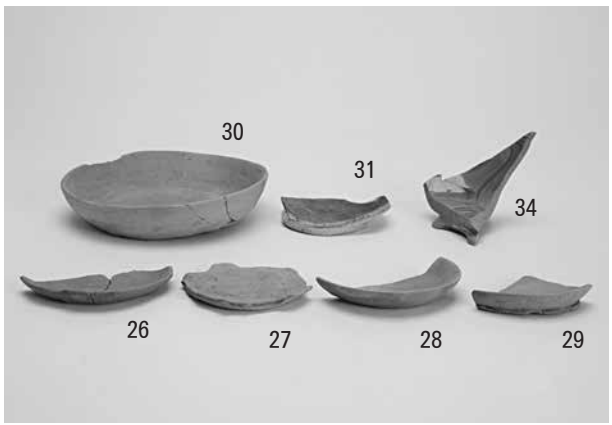
出土遺物３



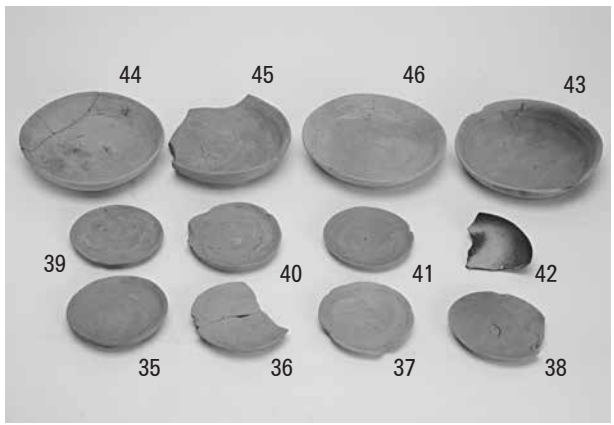
出土遺物４



出土遺物５

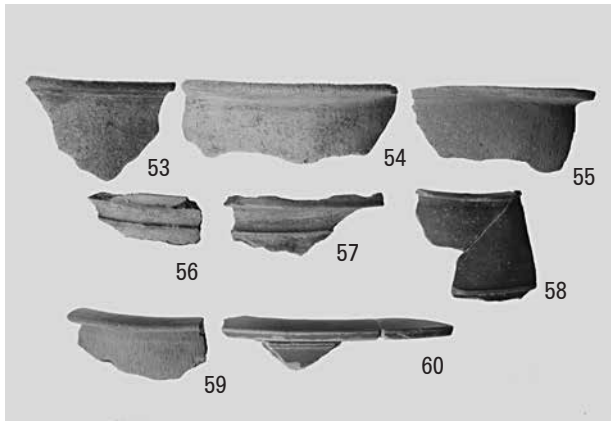


出土遺物６

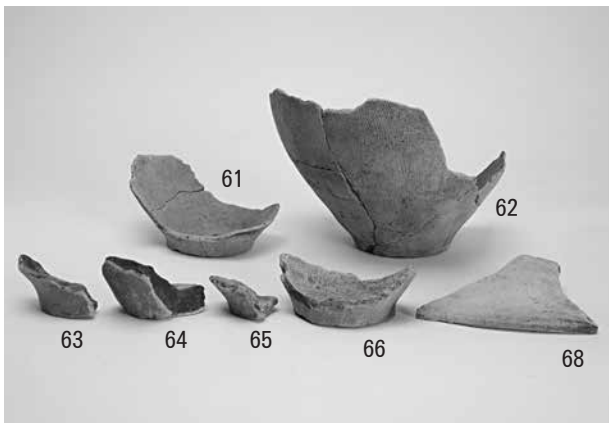


出土遺物７

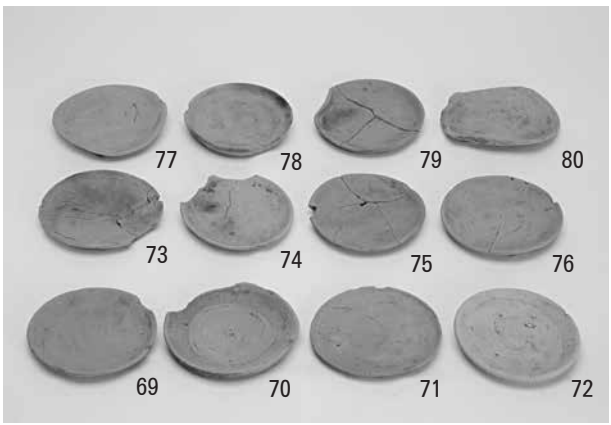
出土遺物８



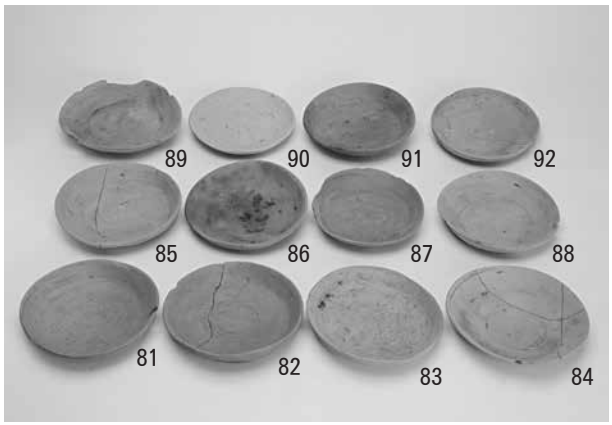
出土遺物９



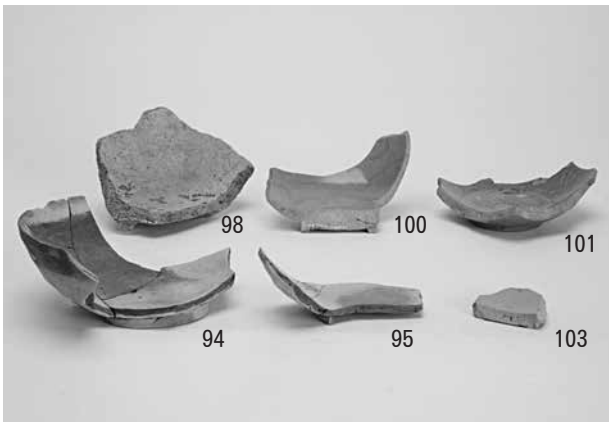
出土遺物10



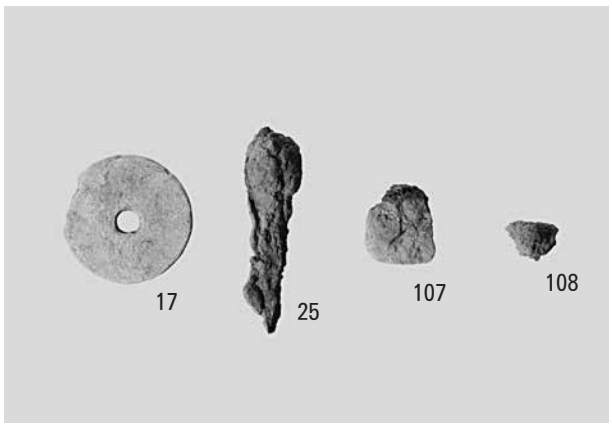
出土遺物11



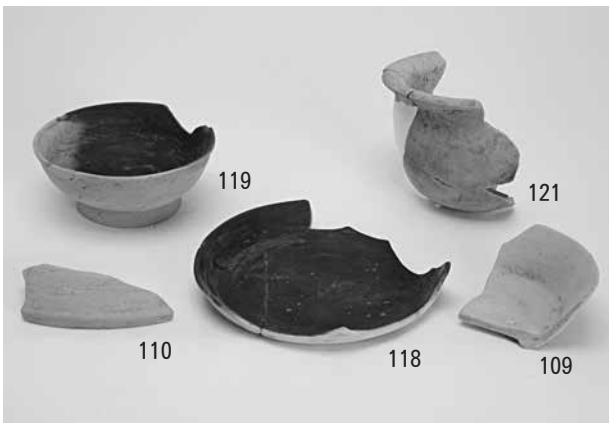
出土遺物12



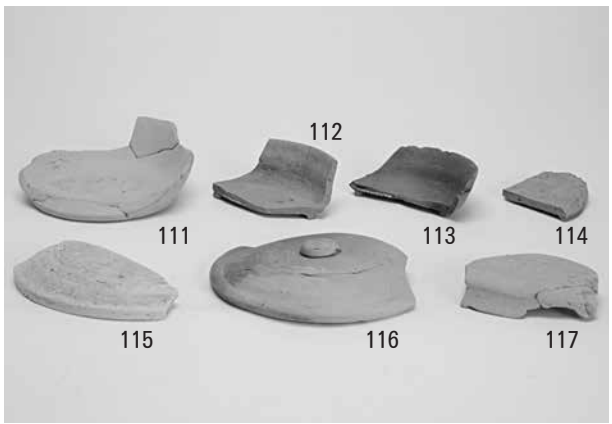
出土遺物13



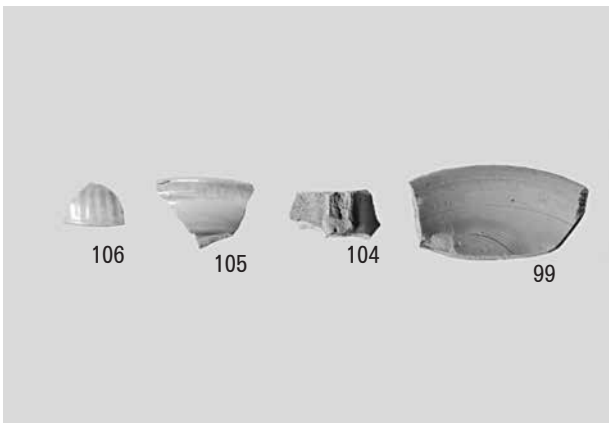
出土遺物14



出土遺物15



出土遺物16



出土遺物17

報告書抄録

ふりがな	にほんぎいせき　－だい31じちょうさ－
書名	二本木遺跡　－第31次調査－
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第352集
編著者名	熊代　昌之・古賀　和子
編集機関	久留米市　市民文化部　文化財保護課
所在地	〒830-8520　福岡県久留米市城南町15-３　Tel 0942-30-9225　Fax 0942-30-9715 E-mail：bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2015（平成27）年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
二本木遺跡 第31次調査	久留米市御井町	40203	03284	33° 18′ 37″	130° 33′ 18″	20140410 ～ 20140509	162㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二本木遺跡 第31次調査	集落	弥生時代 古代 中世	溝　１条 竪穴建物　２棟 土坑　９基	弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、石器、金属器	弥生時代中期後半の溝、古代の竪穴建物、中世の廃棄土坑を検出

要約

調査地は、耳納山地西端部に位置する高良山（312m）より北西側へ派生する丘陵上、標高27m地点に位置する。調査の結果、弥生時代中期後半の溝と土坑、古代の竪穴建物２棟、土坑１基、11世紀後半～12世紀の土坑を検出。11～12世紀の土坑には、大量の土師器坏・皿が投棄されている。調査西方に展開する筑後国府跡Ⅳ期政庁との関連が注目される。

土木工事の届出日	平成26年３月７日 (25文財第1317号-1)	遺物の発見通知日	平成26年５月13日 (26文財社第193号)

＊北緯・東経は「世界測地系」（新座標）に基づく。

二本木遺跡
－第31次調査－
久留米市文化財調査報告書　第352集
平成27年３月31日
発　行　久留米市教育委員会
編　集　久留米市 市民文化部 文化財保護課
印　刷　香和印刷株式会社

二本木遺跡 ―第31次調査―
久留米市文化財調査報告書 第三五二集
平成二十七年
久留米市教育委員会